

大学サミット共同宣言

令和6年12月8日

少子化の進行は、高等教育機関の存続を左右するものである。それと同時に静岡県では、大学進学時や就職時の県外流出も進んでいる。こうした状況は、静岡県の将来を担う人材の確保に影響を及ぼす重大な問題である。

また、人口減少に伴う労働力不足、DX等の進展に伴う人材需要の変化等が進む中、県内の高等教育機関には、その知的・人的資源を最大限に活用し地域をけん引していく中核的な役割が期待される。

本県において、質の高い高等教育の機会を提供し、静岡県の将来を担う人材を確保していくためには、産学官地が一丸となって取り組んでいく必要がある。

私たちは、静岡県の高等教育機関を取り巻く状況や課題を共有し、産学官地が連携して以下の取組を推進する。

1 教育・研究の質の向上及び県内産業への理解促進

- ・静岡県ならではの特色ある教育・研究を実施し、地域全体として教育・研究の質の向上を図るとともに、高等教育機関と企業の連携を更に強化し、県内産業への理解を促進する。
- ・県内外から選ばれる魅力ある高等教育機関及び地域となり、それぞれに活力を生むことで、より一層の発展につながる好循環を目指す。

2 高等教育機関の持つ研究資源の積極的な活用

- ・高等教育機関は、社会の変化やニーズに応じた研究を一層推進する。
- ・研究成果の企業や地域への分かりやすい情報提供、還元、社会実装を積極的に進め、静岡県の産業振興や地域の様々な課題の解決につなげる。

3 産学官地による高等教育の在り方に関する恒常的な議論の実施

- ・恒常的なネットワークを構築し、将来の高等教育の在り方について議論する。
- ・高等教育機関の再編、縮小等も見据え、継続的に議論を行う。

以上、宣言する。